

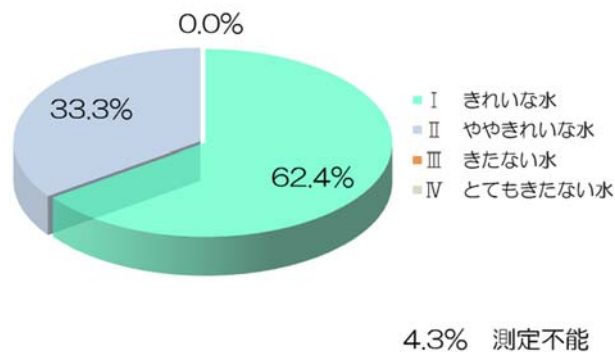
指標生物 29 種のうち 26 種を確認

今回の調査では、指標生物29種のうち、26種が確認できました。調査を実施した93地点で出現した指標生物としては、『I きれいな水』にすむカワゲラ類から『IV とてもきたない水』にすむアメリカザリガニまで、多くの種類の生物を確認できました。なかでも、『I きれいな水』、『II ややきれいな水』にすむ生物が多く確認され、『III きたない水』、『IV とてもきたない水』にすむ生物の確認はわずかでした。

また、水系毎にみると、番匠川水系、五ヶ瀬川水系、小丸川水系、大淀川水系、肝属川水系、球磨川水系、緑川水系、矢部川水系、筑後川水系では、『I きれいな水』の指標生物になるカワゲラ類等が多数出現し、良好な水質状況と言えます。

※令和元年度の詳細な調査結果について、参考資料にまとめています。

『I きれいな水』、『II ややきれいな水』と判定された地点は全体の95%



図一2 年度水質階級構成比

全調査地点のうち、62.4%が『I きれいな水』、33.3%が『II ややきれいな水』と判定され、全体の95.7%となりました。

水質状況は良好な状態を維持

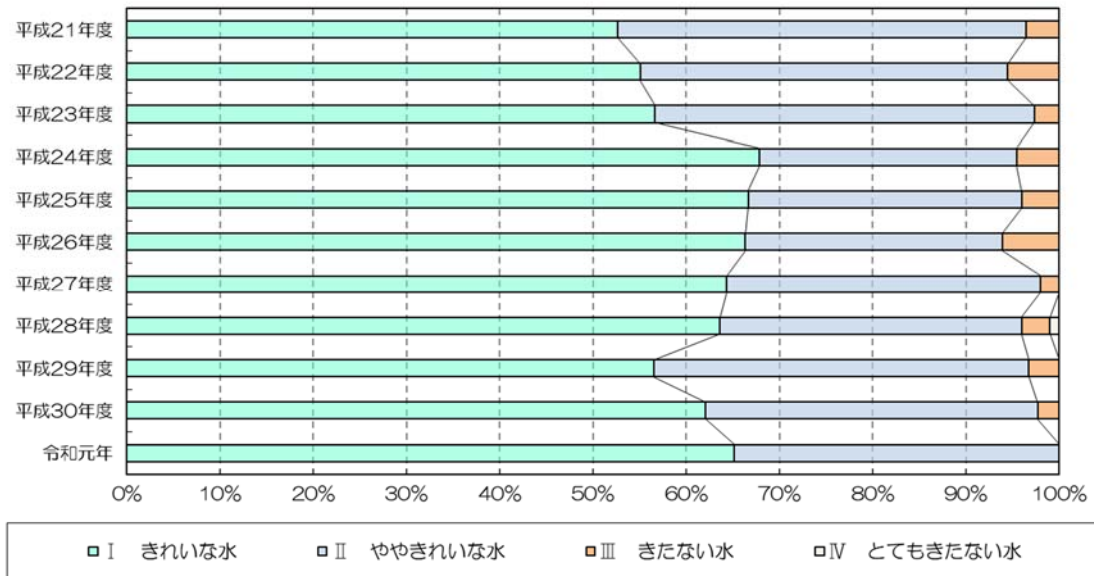


図-3 水質階級比率の推移

過去10カ年の水質状況と比較すると、『I きれいな水』及び『II ややきれいな水』とを合わせた比率は94～97%で推移しており、九州の一級河川は良好な状態を維持しています。

注：毎年の調査地点は一定ではありません。